

東日本大震災からの復旧復興と 石巻地区かわまちづくり

北上川下流河川事務所 所長 石田 和也

1. はじめに

旧北上川河口部復旧復興事業は、東日本大震災による甚大な被害を契機に、これまで無堤防であった石巻市街地に堤防を整備したものです。堤防整備にあたっては、整備後も水辺と地域住民とのよりよい関係を継続し、さらに水辺を活かしたまちづくりや市民活動への展開を期待して、市・有識者及び地域の方々と連携したかわまちづくりを併せてすすめることとしました。

本稿では、復旧復興事業とかわまちづくりをいかに進めたかについて紹介します。



写真-1 被災直後の石巻市中央地区

2. 堤防計画の合意

石巻市の中心市街地を貫流する旧北上川河口部は、江戸時代から舟運の発展により「川湊」として賑わいを生み、まちを大きく発展させました。まち

と、旧北上川の河口部は、堤防がない無堤防地域で、これを前提とした川とまちとの関係が構築されていきました。そこに東日本大震災が発生し、津波が旧北上川を遡上、石巻の中心市街地の被害を大きくした要因の一つになりました。石巻の復旧復興には堤防の整備が必要と考えましたが、これまでの地域と旧北上川との関わりの中で堤防整備については賛成・反対、様々な意見があり、堤防計画への合意が大きな課題でした。

堤防整備の必要性について、大震災の爪痕の残る地域コミュニティの協力をいただきながら丁寧に説明を行い、左右岸で延長約15kmの堤防計画の合意を平成25年1月までにいただきました。この間、地域コミュニティの代表者である町会長さんへの説明も含めると約140回、延べ1,800名以上の方々への説明あるいは説明会を開催いたしました。

3. いしのまき水辺の緑のプロムナード計画

堤防の整備は、安全・安心、そして地域の想いとともによりよいまち復興を目指して、石巻市の新たなまちづくりと連携して進めることとしました。

石巻市は、市街地を流れる旧北上川や北北上運河などの貴重な水辺空間を観光資源として活用する



図-1 いしのまき水辺の緑のプロムナード計画 全体図（平成25年3月）（石巻市提供）

ために、市民や観光客が気軽に水辺へ近づき、安全で快適に散策できる、「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」を平成23年2月に策定していました。



図-2 拠点C(中央地区)のイメージ(石巻市提供)

しかし、計画策定直後の平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、まちが壊滅的な被害を受けたことから、復旧・復興に向けてまちづくり・土地利用計画が大きく見直されました。これを受けて、復興計画に基づく新たなまちづくり、活用出来る観光資源などを踏まえて、平成25年3月にプロムナード計画を前頁のとおり変更しました。(図-1)

4. 石巻地区かわまちづくり

一方、北上川下流河川事務所が実施する石巻市街地を津波・高潮・洪水の被害から守る堤防整備は市民の方々の集いの場、憩いの場となる水辺空間を目指し、石巻市のプロムナード計画と連携して、「かわまちづくり」として実施することとしました。実施にあたっては、検討会やワーキング・調整会議、市民部会を下図のように設けて検討を進めました。特に、景観の基本方針や堤防・護岸等のデザイン、拠点地区の整備の方向性など相互に連携、フィードバックを図りながら、時間をかけて丁寧な検討しました。

また、市民ワークショップや市民報告会、アンケート調査なども実施して、市民の声を反映させました。各会議の目的等は以下のとおりです。

①旧北上川河口かわまちづくり検討会（8回）

学識者・地域代表者・行政委員による検討会では、新たな堤防整備と「いしのまき水辺の緑のプロ

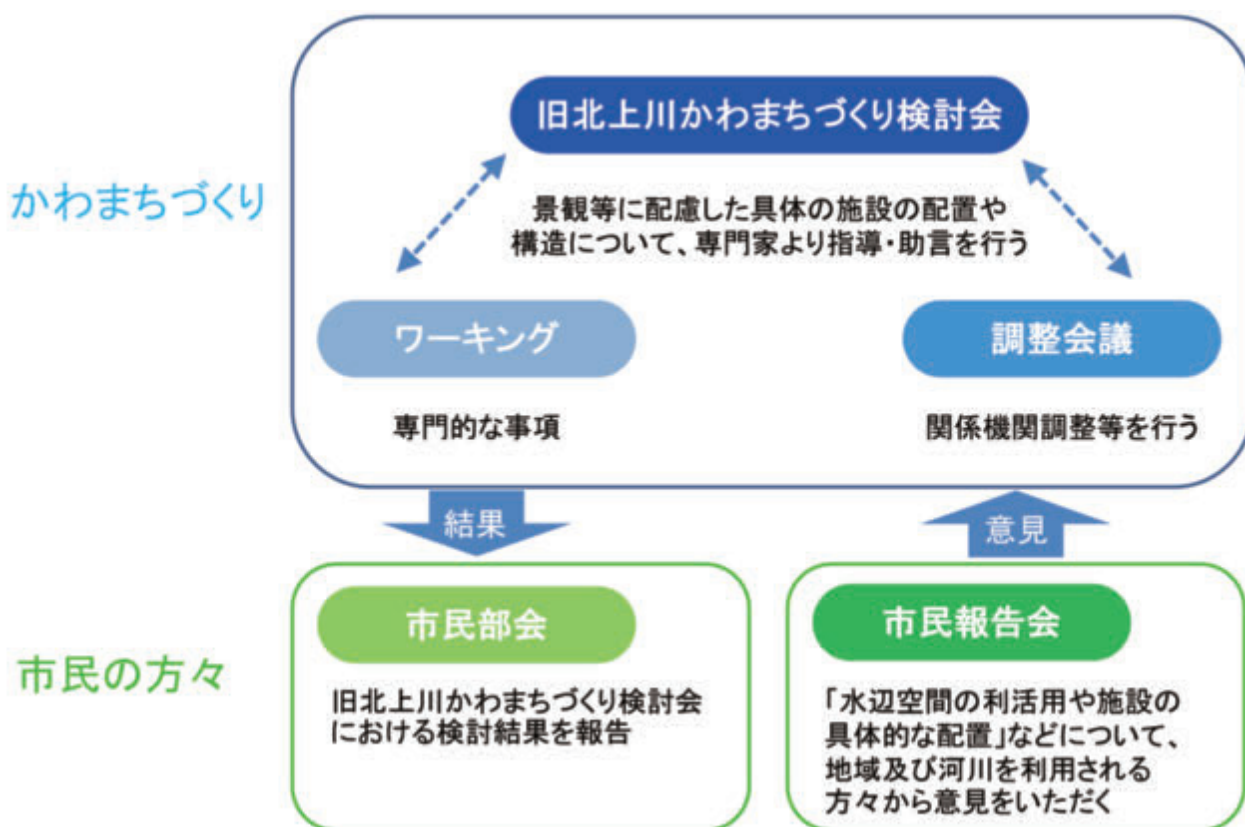


図-3 石巻地区かわまちづくりの検討体制

ムナード計画」を連携させた、歴史・文化、地域特性などを踏まえたかわまちづくりや、景観に配慮する方法について専門家から指導、助言をいただきました。また、かわまちづくりの基本的な方向性の確認や全体のとりまとめを行いました。



写真-2 かわまちづくり検討会の様子

②学識者ワーキング・かわまち調整会議（10回）

ワーキング・調整会議は、景観やデザインの専門家と行政委員で構成し、かわまちづくりにおける具体の修景方法や構造に関わる詳細な部分の指導・助言をいただきました。



写真-3 ワーキング・調整会議の様子

③地区別ワーキング（61回）

アドバイザー（デザイン系コンサルタント）・関係機関による地区別ワーキングは、実務者レベルでできることとできないことの整理を含め細部の整備デザインを議論しました。また、事業調整、工事調整を実施する場として、堤防完成まで継続する組織体制としました。



写真-4 地区別ワーキングの様子

④市民部会（6地区で3～4回）

地域代表者・公募による参加者で構成する市民部会は、新たな水辺空間の利活用や施設の具体的な配置などについて、地域や河川を利用される方の意見を堤防整備に反映させるために6つの地区で開催しました。



写真-5 市民部会の様子



図-4 市民部会 6地区

5. 地区区分および6拠点

こうして、検討してきた「かわまちづくり」は、市民部会における地区と整合した6つの地区毎に特徴を活かした整備を行う事としました。

中でも、中央地区は石巻市の賑わいの拠点として、川と街を結びつける積極的なデザインを展開し、川沿いに堤防空間と一体となった、2棟の再開発事業建物の他、いしのまき元気いちば、かわまち交流センターが整備されています。堤防天端空間については、これらの建築物と一体となった賑わいのプロムナード空間となるよう、各種施設（東屋、天端舗装、植栽、照明施設、ベンチなど）の総合的な空間整備がなされています。

河川空間においても、良好な水辺空間を整備するために、拠点地区に相応しい質の高い景観形成を行いました。



写真－6 中央地区整備状況



写真－7 各種施設（東屋、ベンチ）



写真－8 腰掛けられる高さの石積



写真－9 イベントで賑わう中央地区

6. おわりに

旧北上川河口部の復旧復興事業は令和3年度に完成し、令和4年4月23日に完成式典を開催しました。あらためて石巻地区かわまちづくりに関わっていただいた地域住民をはじめ工事関係者、関係機関、検討会の皆様の協力により完成したことをこの場を借りて感謝いたします。

最後に、かわまちづくりは事業の完了で終わるものではなく、ゴールのない永続的な営みです。整備された水辺がこれからも多くの皆様に利用され、親しまれる空間となる事を強く期待するとともに河川管理者としても積極的に関わっていく所存です。



写真－10 旧北上川河口部復旧復興事業完成式



写真－11 「かわべでシアター」の開催状況



写真－12 大正時代から続く「石巻川開き祭り」の孫兵衛船競漕



写真－13 3年ぶりに開催した「水辺で乾杯」